

# 変額保険

## グローバルミックス

【引受保険会社】



〒108-8020 東京都港区日金1 17 3

# 四半期運用レポート

## 2012年1月～2012年3月

【利用する投資信託の委託会社】

**アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社**



アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エキスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

### 特別勘定の運用方針について

基本資産 配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式 50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 (特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社 特別勘定運用部が行います。)	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募	
		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募	
債券 50%			

特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- ・アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

# 変額保険

## 特別勘定の四半期運用レポート

(2012年1月～2012年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

### 運用環境 [ 2012年1月～2012年3月 ]

#### 【日本株式市場】

日本株式市場は、上昇し、TOPIX(東証株価指数)は12月末比+17.26%の854.35ポイントで終了しました。  
期初は、欧州債務問題に対する懸念などから揉み合いで推移しましたが、堅調な経済指標などを背景に米国株式市場が上昇したことや、IMF(国際通貨基金)の資本増強報道から欧州債務不安が和らいだことを受け上昇しました。2月の日銀追加金融緩和と政策決定以降は、円安の進行を背景とした輸出関連株などが主導し、一段と上昇しました。3月上旬に、中国経済の先行き懸念が強まったことなどから一時下落する局面もありましたが、ギリシャ債務削減交渉がまとまり欧州債務懸念が一服したことに加え、円安が進行し国内企業の業績回復期待が高まったことなどから、さらに上昇して期末を迎えました。  
業種別(東証33業種)では、株式市場の上昇を受けて「証券、商品先物取引業」(12月末比+50.05%)が最も上昇し、12月末比で下落した業種は、ありませんでした。

#### 【外国株式市場】

米国株式市場は、期初は、米企業業績の改善や好調な経済指標などから、上昇しました。ギリシャ債務削減協議が難航したことなどから一時下落する局面もありましたが、2月には、同国債務削減交渉の進展からデフォルト(債務不履行)回避の可能性が高まったことや、3月にFOMC(米連邦公開市場委員会)が景気判断を上方修正したことなどを背景に上昇し、NYダウは、12月末比+8.14%の13,212.04ドルで終了しました。  
欧州株式市場は、ユーロ圏国債価格下げなどから一時揉み合いながらも、米国の景気回復期待やギリシャへの追加金融支援実施への期待などを受け、上昇しました。3月には、ギリシャの債務交換に対する懸念から一時下落しましたが、交渉が進展したことが好感され上昇に転じました。その後、欧州、中国景気の先行き懸念などから下落基調で期末を迎えましたが、期を通して上昇基調で推移し、市場別騰落率は、英FT100は12月末比3.52%上昇、仏CAC40は同8.35%上昇、独DAXは同17.78%上昇となりました。

#### 【日本債券市場】

日本債券市場は、揉み合いでの推移となり、新発10年国債利回りは0.985%となりました(12月末は0.980%)。  
2月までは、ユーロ圏の国債価格下げなど欧州債務問題への懸念、米国景気回復期待、日銀が追加金融緩和策を発表したことなどが交錯して0.9%台後半を中心に揉み合う展開が続きました。3月はギリシャ債務削減交渉進展への期待や日本株式市場の上昇を受けて、金利は上昇しました。その後、FOMCが景気判断を上方修正したことなどから、米国金利は一時急上昇し、それに連動して国内金利も上昇しました。期末にかけては、米国金利の上昇に一服感が出てきたことなどから、低下基調で推移しました。  
日銀は、無担保コール翌日金利の誘導目標を年0.0~0.1%程度で推移するよう金融市場調節を行いました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

#### 【外国債券市場】

米国債券市場は、2月までは、堅調な米経済指標、ユーロ圏国債価格下げ、ギリシャへの追加支援策合意などから揉み合う展開となりました。3月に、ギリシャ債務削減交渉が決着したことやFOMCで景気判断を上方修正したことを受け、追加的な金融緩和への期待が後退したことなどから金利は上昇しました。米10年国債利回りは、3月末には2.209%となりました(12月末は1.876%)。  
欧州債券市場は、根強い欧州債務問題に対する懸念を背景に、ユーロ圏の国債価格下げやギリシャへの追加金融支援実施期待などから揉み合いで推移し、独10年国債利回りは、3月末には1.794%となりました(12月末は1.829%)。  
FRBは、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年1.0%を維持しました。

#### 【外国為替市場】

米ドル/円相場は、2月の中旬までは、堅調な米経済指標と欧州債務問題などから、揉み合いの推移となりましたが、米国株式市場が堅調だったことや日銀追加金融緩和と政策決定などを受け、円安が進行しました。その後も、米景気回復を示す経済指標の発表が相次いだことや、日米の金融当局の政策姿勢の違いを背景に日米金利差が拡大するとの観測が強まったことなどから、円安がさらに進行し、円は対ドルで12月末比4円45銭(+5.72%)円安ドル高の1ドル=82円19銭となりました。  
ユーロ/円相場は、2月の日銀追加金融緩和と政策決定やギリシャへの追加金融支援策合意などから欧州債務懸念が和らぎ、ユーロを買い戻す動きが強まったことなどから、期末にかけて円安が進行しました。円は対ユーロで12月末比9円09銭(+9.03%)円安ユーロ高の1ユーロ=109円80銭となりました。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

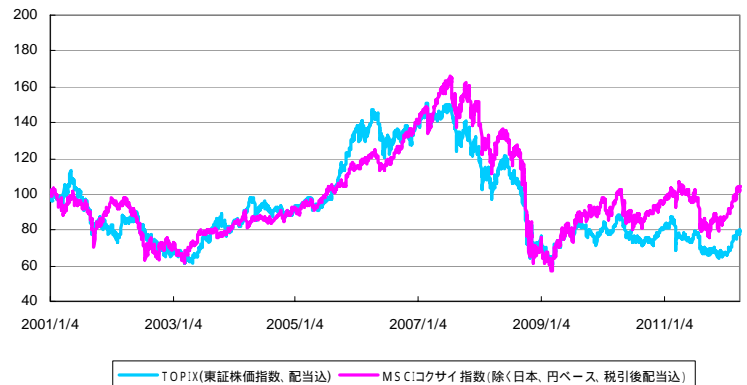
お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

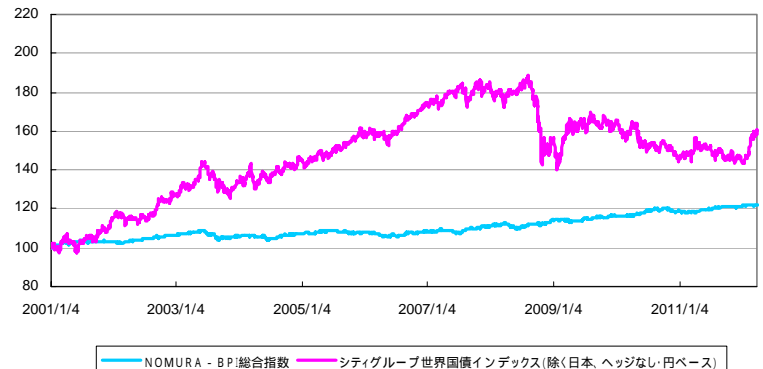
#### 日本と外国の株式市場の推移

\*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

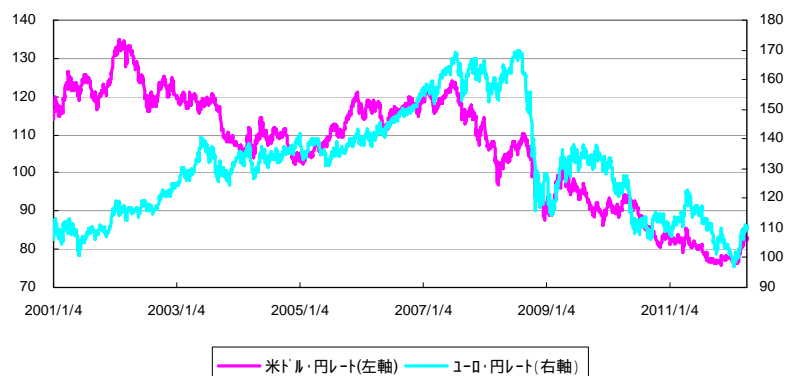


#### 日本と外国の債券市場の推移

\*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



#### 外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

## 変額保険

### 特別勘定の四半期運用レポート (2012年1月～2012年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

#### 特別勘定の運用状況 [ 2012年3月 末日現在 ]

##### 特別勘定のINDEXの推移

特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2012年3月末	2012年2月末	2012年1月末	2011年12月末	2011年11月末	2011年10月末
INDEX	0.889	0.879	0.845	0.829	0.817	0.844
騰落率 (%)	過去1ヵ月 1.12	過去3ヵ月 7.18	過去6ヵ月 8.32	過去1年 1.05	過去3年 20.20	設定来 11.10

特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

##### 特別勘定資産の内訳

項目	金額(千円)	比率(%)
現預金・その他	724,803	2.1
その他有価証券	33,808,812	97.9
アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A)	3,474,845	10.1
アクサ ローゼンバーグ・日本バリュウ株式ファンド(B)	5,192,548	15.0
アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A)	5,210,701	15.1
アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A)	3,346,895	9.7
アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B)	16,583,822	48.0
合計	34,533,615	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

##### 特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当期のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。  
 資産配分に関しては、基本資産配分を概ね維持しております。(株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。)  
 今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

##### [引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

## 変額保険

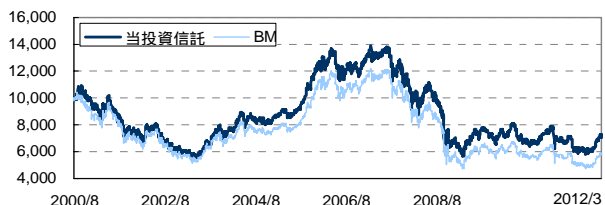
# 特別勘定の四半期運用レポート (2012年1月～2012年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

## アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[ 2012年3月 末日現在 ]

### 当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を10,000として指数化しています。

### 当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	3.38%	18.53%	14.33%	0.49%	14.50%	28.36%
BM	2.20%	17.26%	12.24%	1.73%	10.43%	42.37%
差	1.18%	1.27%	2.09%	2.22%	4.07%	14.01%

### マザーファンド受益証券の詳細情報

#### 業種別構成比率

業種	マザーファンド
1 電気機器	10.70%
2 輸送用機器	10.69%
3 銀行業	9.24%
4 卸売業	8.70%
5 情報・通信業	6.28%
6 化学	5.44%
7 小売業	4.89%
8 機械	4.12%
9 その他業種	36.51%
10 現金等	3.42%
合計	100.00%

#### 組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 トヨタ自動車	輸送用機器	3.84%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.35%
3 本田技研工業	輸送用機器	2.18%
4 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.10%
5 日本電信電話	情報・通信業	1.85%
6 キヤノン	電気機器	1.84%
7 三菱商事	卸売業	1.63%
8 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.32%
9 三井物産	卸売業	1.22%
10 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	情報・通信業	1.21%
合計		20.53%
組入銘柄数		260銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

### 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+18.53%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+17.26%となりました。当四半期の日本株式市場は、純資産利回りが高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託はこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄りました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、下落した石油販売を多めに保有していたことはマイナスに寄りましたが、上昇した卸売および建設を多めに保有していたことはプラスに寄りました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、下落した日本電信電話(9432)およびケーズホールディングス(8282)を多めに保有していたことはマイナスに寄りましたが、上昇したUCCホールディングス(3156)およびミサワホーム(1722)を多めに保有していたことはプラスに寄りました。当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド(A) 適格機関投資家私募  
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年8月3日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。  
 「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)<sup>1)</sup>です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

#### 市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	93.18%
2 大阪証券取引所第一部	3.40%
3 現金等	3.42%
合計	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「\*1～\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

#### [引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>



# 変額保険

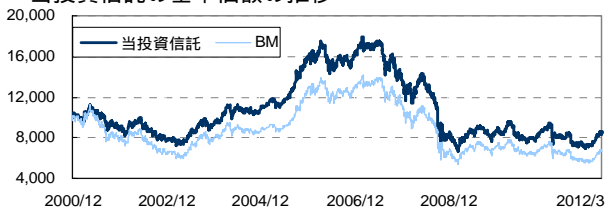
## 特別勘定の四半期運用レポート (2012年1月～2012年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

### アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[ 2012年3月 末日現在 ]

#### 当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

#### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.82%	17.33%	14.01%	0.94%	14.16%	15.35%
BM	2.20%	17.26%	12.24%	1.73%	10.43%	33.74%
差	0.62%	0.07%	1.77%	2.67%	3.73%	18.39%

#### マザーファンド受益証券の詳細情報

業種別構成比率	マザーファンド
1 銀行業	12.80%
2 輸送用機器	10.59%
3 卸売業	8.41%
4 情報・通信業	7.57%
5 小売業	6.94%
6 化学	6.93%
7 電気機器	6.88%
8 陸運業	6.77%
9 その他業種	31.17%
10 現金等	1.93%
合計	100.00%

#### 組入上位10銘柄

銘柄	業種	マザーファンド
1 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	4.52%
2 本田技研工業	輸送用機器	4.21%
3 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.62%
4 日本電信電話	情報・通信業	3.24%
5 日産自動車	輸送用機器	3.17%
6 三菱商事	卸売業	3.17%
7 住友商事	卸売業	2.66%
8 KDDI	情報・通信業	2.57%
9 野村ホールディングス	証券、商品先物取引業	2.55%
10 大塚ホールディングス	医薬品	2.38%
合計		32.10%
組入銘柄数		138銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

#### 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+17.33%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数(TOPIX)の騰落率は、前四半期末比+17.26%となりました。当四半期の日本株式市場は、純資産利回りが高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託はこれらの銘柄をベンチマークに対して多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇したその他金融および小売を多めに保有していたことはプラスに寄与しましたが、下落した輸送および通信を多めに保有していたことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇したトヨタ自動車(7203)を少なめに保有していたことや下落した日本電信電話(9432)を多めに保有していたことはマイナスに寄与しましたが、上昇した野村ホールディングス(8604)および本田技研工業(7267)を多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステムティックなモデル(定量分析)を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

#### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式ファンド(B) 適格機関投資家私募  
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーク・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数(TOPIX)<sup>1)</sup>です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

#### 市場別構成比率

市場	マザーファンド
1 東京証券取引所第一部	96.19%
2 大阪証券取引所第一部	1.65%
3 東京証券取引所第二部	0.16%
4 大阪証券取引所第二部	0.04%
5 名古屋証券取引所第二部	0.01%
6 ジャスダック証券取引所	0.01%
7 名古屋証券取引所第一部	0.01%
8 現金等	1.93%
合計	100.00%

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「\*1～\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

#### [引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額保険

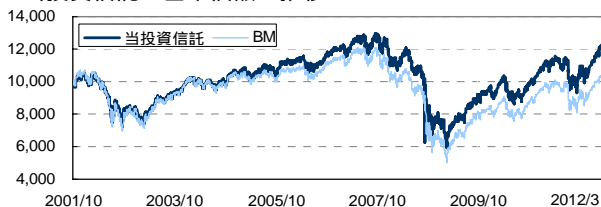
## 特別勘定の四半期運用レポート (2012年1月～2012年3月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

### アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[2012年3月 末日現在]

#### 当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

#### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	2.65%	12.41%	23.34%	7.63%	75.53%	21.43%
BM	2.24%	10.99%	20.58%	5.22%	76.33%	3.30%
差	0.40%	1.42%	2.76%	2.42%	0.80%	18.13%

#### マザーファンド受益証券の詳細情報 セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 エネルギー	11.05%
2 ソフトウェア・サービス	9.41%
3 テクノロジー・ハードウェア	8.66%
4 医薬品バイオテクノロジー・ライフ	8.06%
5 ヘルスケア機器・サービス	7.55%
6 小売	6.80%
7 資本財	6.63%
8 保険	5.31%
9 その他業種	35.64%
10 現金等	0.88%
合計	100.00%

#### 組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1 APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	5.56%
2 INTEL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.94%
3 CHEVRON CORP	アメリカ	エネルギー	2.67%
4 EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	2.62%
5 PFIZER INC	アメリカ	医薬品バイオテクノロジー・ライフ	2.35%
6 PHILIP MORRIS INTERNATIONAL INC	アメリカ	食品・飲料・タバコ	2.26%
7 INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	2.08%
8 MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	2.02%
9 WAL-MART STORES INC	アメリカ	食品・生活必需品小売	1.72%
10 TJX COMPANIES INC	アメリカ	小売	1.27%
合計			25.49%
組入銘柄数			208銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

#### 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+12.41%となりました。一方、ベンチマークであるS&P500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前四半期末比+10.99%となりました。

当四半期の米国株式市場は、純資産利回りが高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託はこれらの銘柄をベンチマークに対して多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇した銀行を少なめに保有していたことはマイナスに寄与しましたが、上昇したコンピューターおよび小売を多めに保有していたことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇したコンピューターのACCENTUREおよびヘルスケアのCOVIDIENを少なめに保有していたことはマイナスに寄与しましたが、上昇したテクノロジーのAPPLEおよび各種金融のDISCOVER FINANCIAL SERVICESを多めに保有していたことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

#### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド(A) 適格機関投資家私募  
【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数<sup>2</sup>

(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「\*1～\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

# 変額保険

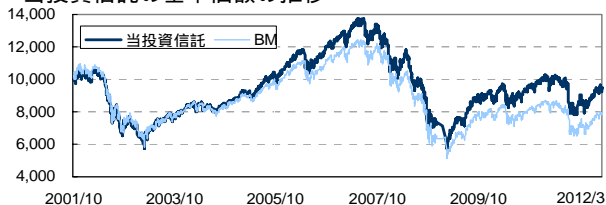
## 特別勘定の四半期運用レポート (2012年1月～2012年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

### アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募 の運用状況

[ 2012年3月 末日現在 ]

#### 当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を10,000として指数化しています。

#### 当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	1.52%	7.29%	12.48%	7.62%	45.68%	7.71%
BM	1.94%	6.39%	11.13%	9.77%	38.27%	23.45%
差	0.43%	0.90%	1.35%	2.15%	7.42%	15.74%

#### マザーファンド受益証券の詳細情報 国別構成比率

順位	国名	マザーファンド
1	イギリス	29.31%
2	フランス	13.87%
3	スイス	13.11%
4	ドイツ	12.51%
5	オランダ	7.02%
6	スウェーデン	5.40%
7	スペイン	4.55%
8	イタリア	3.05%
9	その他の国	9.49%
10	現金等	1.69%
合計		100.00%

#### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド(A) 適格機関投資家私募  
 【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
 【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」(バリューストック)を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2001年10月16日)の前日を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数<sup>3</sup>(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

#### セクター別構成比率

順位	セクター	マザーファンド
1	食品・飲料・タバコ	11.99%
2	エネルギー	10.79%
3	医薬品・バイオテクノロジー	9.94%
4	資本財	9.11%
5	素材	8.82%
6	銀行	7.86%
7	電気通信サービス	6.94%
8	保険	5.65%
9	その他業種	27.22%
10	現金等	1.69%
合計		100.00%

#### 組入上位10銘柄

順位	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	3.52%
2	BP PLC	イギリス	エネルギー	2.62%
3	SANOFI	フランス	医薬品・バイオテクノロジー	2.00%
4	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	1.87%
5	VODAFONE GROUP PLC	イギリス	電気通信サービス	1.73%
6	TELEFONICA S.A.	スペイン	電気通信サービス	1.66%
7	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	1.54%
8	ROYAL DUTCH SHELL PLC-A SHS	オランダ	エネルギー	1.52%
9	ROCHE HOLDING AG-GENUSS	スイス	医薬品・バイオテクノロジー	1.48%
10	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノロジー	1.35%
合計				19.28%
組入銘柄数				267銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

#### 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+7.29%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)の騰落率は、前四半期末比+6.39%となりました。

当四半期の欧州株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄りました。委託会社独自の業種別ではベンチマーク対比で、上昇したその他金融およびソフトウェアを少なめに保有していたことはマイナスに寄りましたが、上昇した飲料・タバコおよび自動車が多めに保有していたことはプラスに寄りました。一方、個別銘柄ではベンチマーク対比で、上昇した自動車のRENAULT(フランス)および素材のLANXESS(ドイツ)を多めに保有していたことはプラスに寄りましたが、下落した医薬品のNOVARTIS(スイス)およびASTRAZENECA(イギリス)を多めに保有していたことはマイナスに寄りました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選択してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル(定量分析)等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「\*1～\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>



# 変額保険

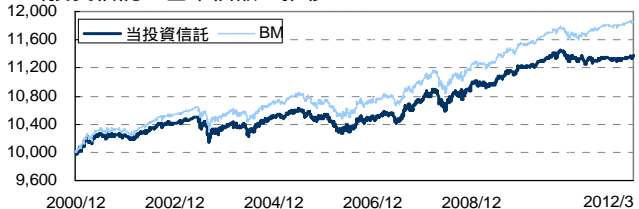
## 特別勘定の四半期運用レポート (2012年1月～2012年3月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

### アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募 の運用状況

[ 2012年3月 末日現在 ]

#### 当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を10,000として指数化しています。

#### 当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	0.14%	0.48%	0.42%	0.56%	3.81%	13.77%
BM	0.00%	0.38%	0.57%	1.52%	5.44%	18.60%
差	0.14%	0.10%	0.14%	0.96%	1.63%	4.83%

#### マザーファンド受益証券の詳細情報 資産構成

	修正デュレーション	マザーファンド
公社債	4.53年	99.30%
国債	4.87年	72.35%
地方債	0.00年	0.00%
特殊債・財投債	3.17年	6.46%
金融債	2.62年	1.05%
社債等	3.79年	19.45%
その他	0.00年	0.00%
短期資産等*	0.00年	0.70%
合計	4.49年	100.00%

\* 債券先物を含みます。

#### 利用する投資信託について

【投資信託名】 アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド(B) 適格機関投資家私募  
【委託会社】 アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社  
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本債券  
マザー・ファンド受益証券 適格機関投資家私募 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2000年12月21日)の前日を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス(総合<sup>4</sup>、中期3年以上7年未満)です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

#### 公社債の格付別構成比率

格付区分	マザーファンド
AAA	0.00%
AA	86.96%
A	13.04%
BBB	0.00%
BB以下(無格付含)	0.00%
合計	100.00%

格付基準:

海外格付機関の格付を優先します。  
海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

#### ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	0.51%
平均クーポン	1.27%
平均残存期間	4.66

「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

#### 組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	第277回利付国債(10年)	日本	1.600%	2016年3月20日	Aa3	AA-	7.61%
2	第269回利付国債(10年)	日本	1.300%	2015年3月20日	Aa3	AA-	5.07%
3	第93回利付国債(5年)	日本	0.500%	2015年12月20日	Aa3	AA-	4.17%
4	第272回利付国債(10年)	日本	1.400%	2015年9月20日	Aa3	AA-	3.49%
5	第273回利付国債(10年)	日本	1.500%	2015年9月20日	Aa3	AA-	3.40%
6	第288回利付国債(10年)	日本	1.700%	2017年9月20日	Aa3	AA-	3.32%
7	第295回利付国債(10年)	日本	1.500%	2018年6月20日	Aa3	AA-	3.29%
8	第298回利付国債(10年)	日本	1.300%	2018年12月20日	Aa3	AA-	3.25%
9	第312回利付国債(10年)	日本	1.200%	2020年12月20日	Aa3	AA-	3.19%
10	第4回 日本政策投資銀行	日本	1.158%	2014年6月20日	Aa3	A+	3.16%
合計							39.96%
組入銘柄数							48銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

#### 当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前四半期末比+0.48%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス(総合、中期3年以上7年未満)は四半期末比+0.38%となりました。

日銀は3月の金融経済月報で、日本経済は「持ち直しに向けた動きもみられているが、なお横ばい圏内にある」として、1、2月の単に「横ばい圏内」との表現からわずかながら前進しているとの見方を示しました。一方金融政策からは、2月14日の金融政策決定会合で日銀は、消費者物価指数で当面前年比1%の上昇を目指すという事実上のインフレ目標の設定に踏み切りました。これを受けて為替は円安となり、株式市場では市場心理が改善、株価は上昇基調となりました。日本経済指標をみると、2月の鉱工業生産速報値は1.2%と3ヶ月ぶりの低下となりました。2月の貿易統計輸出総額は前年比2.7%と5ヶ月連続での減少となりましたが、1月の9.2%からは改善傾向にあります。2月の有効求人倍率は0.75倍と前月比で0.02ポイント改善しました。債券市場では当四半期の新発10年国債利回りは0.05%上昇の0.985%となりました。

当四半期の当投資信託は、1月、2月においてはベンチマークを若干下回る成果となりましたが、3月に円建外債への投資が奏功し、ベンチマークを上回る結果となりました。今後については短期国債の利回りが非常に低い水準にあることから、年限の長い債券を選択する投資家が多いとみられ、その結果イールドカーブは平坦化するだろうと委託会社はみており、今後の当投資信託の方針としては、イールドカーブ戦略は平坦化を維持し、デュレーション戦略をベンチマークと同等の水準とする予定です。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・4ページ～8ページに記載されている「\*1～\*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

#### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>



## 用語説明

- \*1 「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。  
東証株価指数(TOPIX)は、株式会社東京証券取引所(以下「東証」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証が有しています。  
東証は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- \*2 「S & P 500種株価指数」とは、スタンダード・プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード・プアーズ社に帰属しています。S & P 500種株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、S & P 500種株価指数(米ドルベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- \*3 「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。  
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数(為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの)は、MSCI欧州株価指数(ユーロベース)に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。
- \*4 「日興債券パフォーマンス・インデックス(総合)」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

## 注意事項

### 変額保険の仕組み

変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。

\*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

### 変額保険のリスクについて

#### 市場リスク

特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額(有期型の場合、満期保険金を含む)や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

#### 信用リスク

万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

### 【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-778-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>